

血液科

1. スタッフ（2023年12月末現在）

所属長（教授）	神田 善伸
科長・病棟医長（教授）	賀古 真一
医員（教授）	仲宗根秀樹
	（領域融合治療研究部兼任）
（准教授）	木村 俊一
（助教）	佐藤 美樹
（彩の国東大宮メディカルセンター派遣中）	
	楠田 待子
病院助教	後明晃由美
	（埼玉県立がんセンター派遣中）
シニアレジデント	9名
	（派遣中1名含む）

2. 診療科の特徴

難治性疾患を中心として、血液疾患診療の埼玉県の拠点として貢献している。造血器腫瘍に対する化学療法や、再生不良性貧血などの免疫異常に伴う造血障害に対する免疫抑制療法などの一般的な治療に加えて、2007年6月から同種移植を中心とした造血幹細胞移植診療を開始し、2023年は1年間で53人の患者さんに同種造血幹細胞移植、32人の患者さんに自家造血幹細胞移植を行い（計85件）、国内トップクラスの移植数と移植成績をおさめている。また、さいたま市民医療センターを中心に数多くの周辺施設との連携によって幅広い疾患の診療、教育を可能にしている。研究面では臨床研究と免疫の基礎研究の成果を国際専門誌に多数報告し、血液内科として国内でも有数の研究施設として血液診療の向上に貢献している。

日本血液学会研修施設	
エイズ治療拠点病院	
骨髄移植推進財団認定移植施設	
日本さい帯血バンクネットワーク登録病院	
日本内科学会認定内科医	15名
日本内科学会総合内科専門医	5名
日本内科専門医	4名
日本血液学会認定血液専門医	16名
日本血液学会認定指導医	7名
日本造血・免疫細胞療法学会認定医	8名
日本がん治療認定医機構暫定教育医	1名
日本輸血・細胞療法学会認定医	3名
細胞治療認定管理者	1名
JMECC インストラクター	1名
老年科専門医	1名

3. 実績・クリニカルインディケーター （2023年1月～12月）

1）外来患者数	
新規患者数	247人
再来患者数	13224人（のべ）

2）入院患者数	
入院患者数	229人（実人数）
入院患者数	390人（のべ）
平均在院日数	33.3日

疾患別内訳（実人数）	
急性骨髄性白血病	41例
急性リンパ性白血病	27例
骨髄異形成症候群	19例
慢性骨髄性白血病	5例

慢性骨髄単球性白血病	4 例	剖検数	1 例
B 細胞性リンパ腫	41例		
T/NK リンパ腫	10例	6) 移植症例数	
ホジキンリンパ腫	8 例	総移植件数	85件
多発性骨髄腫	30例	移植ソース別 内訳	
骨髄増殖性腫瘍	3 例	自家末梢血	32件
骨髄移植ドナー	7 例	血縁骨髄	0 件
末梢血幹細胞移植ドナー	15例	血縁末梢血	9 件
その他	15例	非血縁骨髄移植	33件
(特発性血小板減少性紫斑病 3 例、 原発性アミロイドーシス 3 例、リン パ増殖性腫瘍 2 例、系統不明の急性 白血病 2 例、血栓性血小板減少性紫 斑病 2 例、自己免疫性溶血性貧血 1 例、芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍 1 例、赤芽球癆 1 例)		非血縁末梢血	1 件
		非血縁臍帯血移植	10件
3) 手術件数		7) 治療成績	
全身麻酔下骨髄採取術 7 例		2007年～2023年前半に行われた造血幹細胞移植の成績について生存曲線を以下に示す。特に同種移植については非血縁者間移植や HLA 不適合移植などの困難な移植が多数含まれているにも関わらず、第一・第二寛解期移植での移植関連死亡率は1年で11.5%、5年で19.4%のみであり、国内外の他の施設の治療成績と比較しても極めて安全な移植診療を提供できている。その背景には自分たちの臨床研究に基づく緻密な治療計画や、常に全身をみわたした入念な管理も寄与していると思われるが、それ以上に他科医師、薬剤師、放射線技師など様々な部門の協力、そしてなによりも病棟看護師の献身的かつ繊細な看護によって好成績がもたらされている。	
4) 外来化学療法・放射線療法症例数		進行期急性白血病に対する移植成績は、他の施設と同様に残念ながら満足できるような移植成績は得られていない。移植後の再発を抑制するための手法の開発研究が必要である。	
外来化学療法症例数	157例		
放射線療法症例数	32例		
5) 死亡症例退院数			
総数 25例			
疾患別内訳			
急性骨髄性白血病	4 例		
急性リンパ性白血病	4 例		
骨髄異形成症候群	4 例		
慢性骨髄単球性白血病	2 例		
B 細胞性リンパ腫	3 例		
多発性骨髄腫	2 例		
T/NK リンパ腫	4 例		
骨髄増殖性腫瘍	2 例		

図1. 急性白血病に対する初回同種移植後
(全356例)の生存曲線
(太線は第一、第二寛解期移植、細線は進
行期移植)

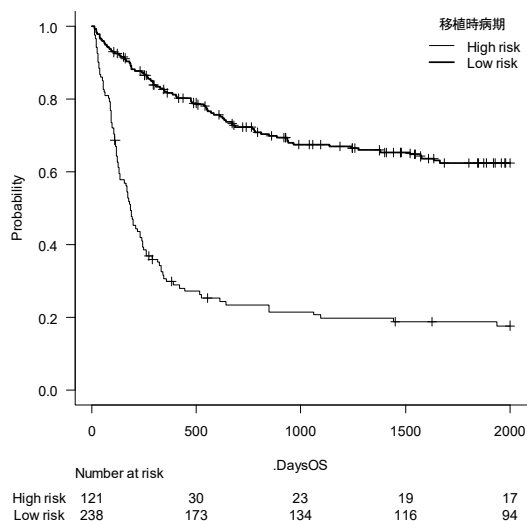


図2. 急性白血病に対する初回同種移植後
(全329例)の無再発生存曲線(太線は第
一、第二寛解期移植、細線は進行期移植)

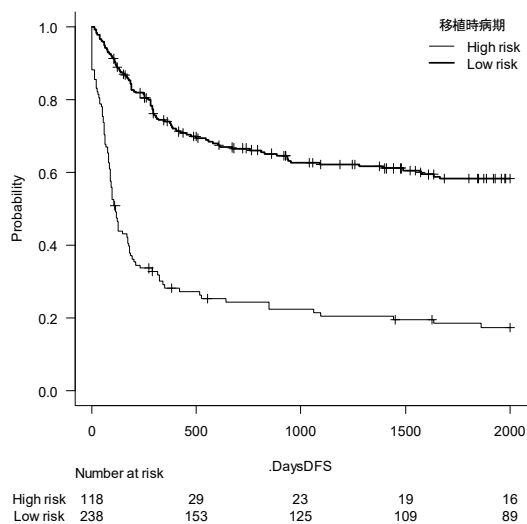


図3. 急性白血病に対する初回同種移植後
の移植関連死亡率(再発を競合リスクとし
て扱った累積非再発死亡率。太線は第一、
第二寛解期移植、細線は進行期移植)

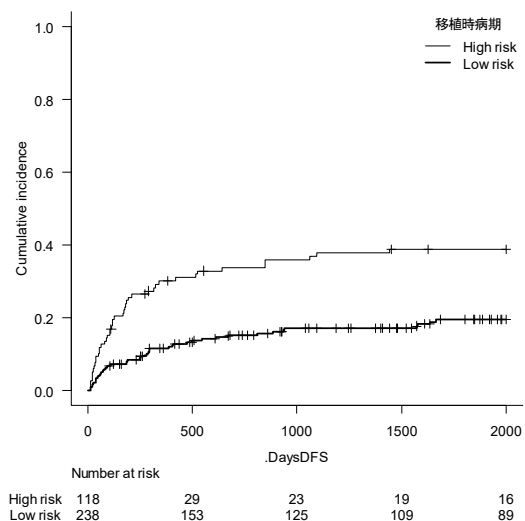


図4. 再生不良性貧血(AA、27例)、成人
T細胞性白血病(ATL、18例)、骨髓異形
成症候群(MDS、94例)に対する初回同
種移植後の生存曲線

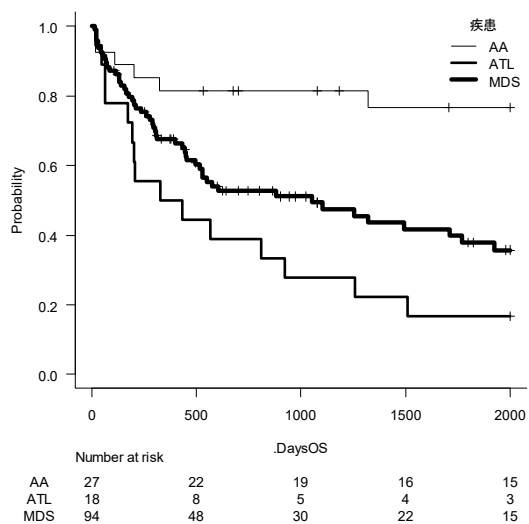
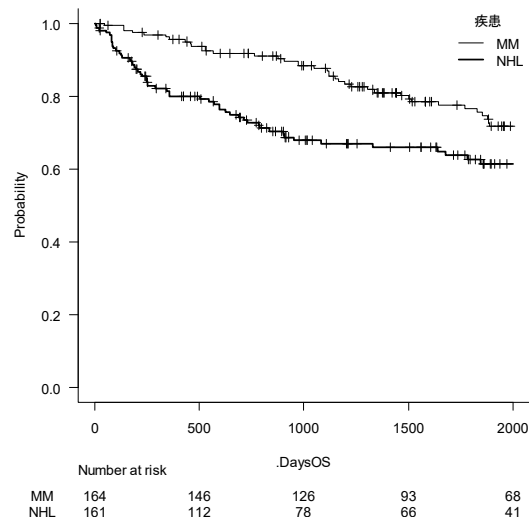


図5. 多発性骨髄腫（MM、158例）、非ホジキンリンパ腫（NHL、146例）に対する初回自家移植後の生存曲線



4. カンファランス

毎週火曜日と金曜日に症例検討カンファランスと病棟回診を実施している。その他、水曜日に移植症例カンファランス、抄読会、臨床研究カンファランスなどを行っている。

5. 研究・学会活動

研究報告

原著英文論文	57件
国内学会発表	21件
国際学会発表	4件
和文著書・総説	7件
その他発表	11件

（詳細は自治医科大学年報 第51号を参照）

学会などの活動

日本血液学会理事・代議員
日本造血・免疫細胞療法学会理事・評議員
日本医真菌学会理事・代議員
日本がん・生殖医療学会理事

日本臨床腫瘍学会評議員

日本骨髄腫学会幹事

日本血液学会診療委員会委員長

日本造血・免疫細胞療法学会臨床研究委員会委員長

独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員

骨髄移植推進財団関東地区代表協力医師

骨髄移植推進財団関東地区調整医師

6. 目標の達成度、来年の目標

さいたま市民医療センター、彩の国東大宮メディカルセンター（2023年度はさいたま赤十字病院、埼玉県立がんセンターにも常勤医師派遣）への常勤医師複数派遣を継続し、診療連携を確立することによって、より効率的に数多くの血液疾患の患者さんの診療を行なうことができるようになった。同時に幅広い後期研修プログラムの計画が可能となった。2024年にはキメラ抗原受容体遺伝子改変T細胞（CAR-T）療法を開始する予定である。研究面では2023年も数多くの臨床研究論文を国際専門誌に発表することができた。2023年の目標達成度は満足できるものである。さらなる発展のために引き続き下記の目標を掲げた。

- 1) 学生、ジュニアレジデント、シニアレジデントの教育の充実。特に悪性腫瘍疾患を診ることができる総合医の育成
- 2) 高齢者、終末期医療を含めた幅広い血液疾患の後期研修プログラムの確立
- 3) 造血幹細胞移植、CAR-T療法を中心とした地域のための先端医療の充実
- 4) 臨床研究、基礎研究の発展、大学院プログラムの充実
- 5) 血液専門医が不足しているさいたま市および周辺エリアへの専門医供給